

プレスリリース

2022年3月31日

データ駆動社会の基盤であるデータ連携の体系を整備
ー 政府相互運用性フレームワーク（GIF）の公開 ー
GIF: Government Interoperability Framework

生活や企業のあらゆる活動でデータを活用するデータ駆動社会において、円滑にデータを交換したりデータを活用したりする事が必要である。2030年のデータ駆動社会実現のため、データのひな形やガイドブック等により構成されるデータ整備や運用のための体系である政府相互運用性フレームワークを整備した。

社会の基本データは100年以上使うものも珍しくなく、データは社会の重要な資産と捉えられ始めている。一方、データを使った様々なサービスが提供されているが、データがバラバラで連携できない、利用ルールが違うので活用できない等の問題が指摘されている。

先進各国ではこの問題を解決するためにデータの連携を行うための体系の整備を進め、データ整備等の社会への実装を経て2030年頃に本格的なデータ駆動社会を実現しようとしている。

我が国でもデータのひな形やガイドブックの整備等の取り組みを進めてきたが、これらを一つの体系としてまとめ、データの整備と活用の加速を図ることとした。

現在、デジタル時代の台帳である法人や土地などに関するベースレジストリの取り組み、行政データ、スマートシティ、教育、防災等のデジタル化が進められているが、これらの基盤となるのが本体系である。本体系を使用することで、分野横断の取り組みの促進、サービス設計の高速化等の実現を目指していく。また、本体系はグローバルな取り組みとも協力して検討を進めており、国外の先進サービスの国内での活用、国内サービスの海外展開も促進するものである。

今回公表する体系はデータ部分を中心に整理しており、今後、ルールやプラットフォーム等の部分も充実させるとともに、利用者等からの意見収集のフォームを設置し、継続的な改善を図っていく予定である。なお、本体系は、デジタル庁が、独立行政法人情報処理推進機構デジタル・アーキテクチャ・デザイン・センター（IPADADC）の協力のもと作成している。

資料：新しいデータ体系について（PPT）

問い合わせ先

デジタル庁デジタル社会共通機能グループ：稲垣、長谷川

メール：gif-info@digital.go.jp

(参考) 政府相互運用性フレームワーク (GIF)

GIF はデータを相互運用するための体系です。データを連携するにはデータの形式を揃えるだけでなく運用ルールや交換するためのツールなども必要になり、これらを総称したものが相互運用性と言われています。特に、ルール、プラットフォーム、データの整備が中核と言われており、今回の公開版は、これまでの政府内の取り組みを発展させデータの部分を中心に体系化を図っています。

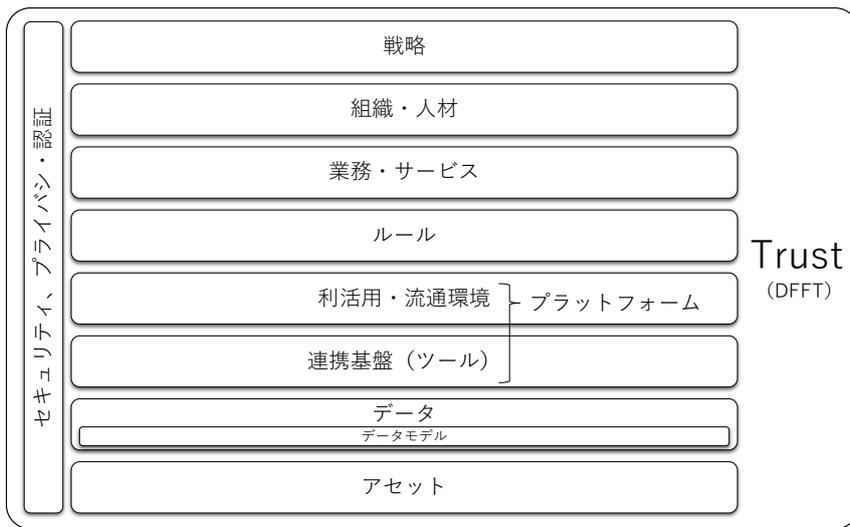


図1 GIFの全体体系

プロダクト全体は、データモデルとガイドブック群が中心となり、以下のように整理されます。

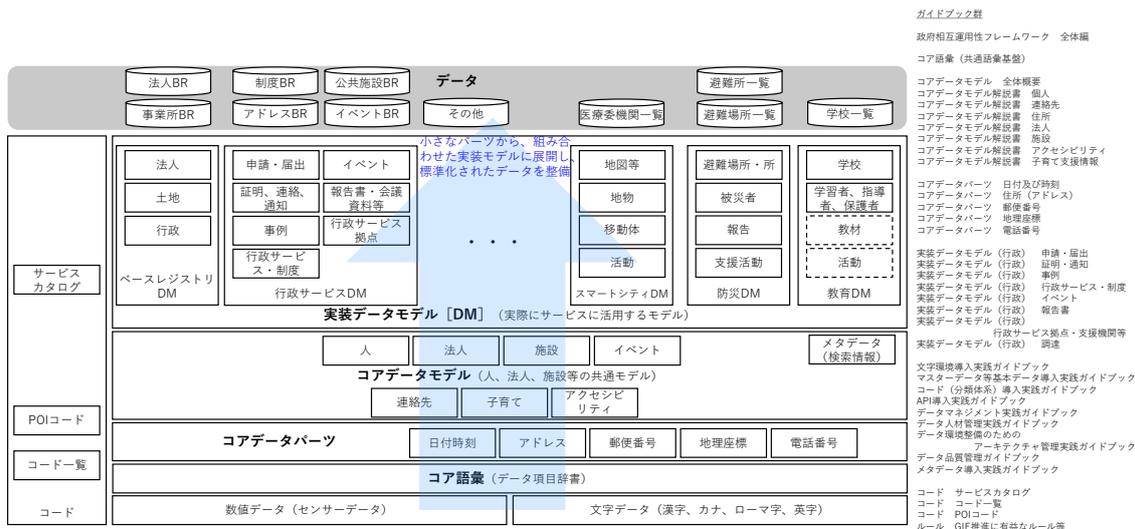


図2 GIFの主要プロダクト

【GIFによるメリット】

GIFによるメリットは、以下になります。

- 社会全体でのデータ流通の円滑化
- データ設計の高度化・効率化
- 分野内や分野間、また広域でのサービス連携、サービス展開の促進
- 行政手続きの利便性向上・迅速化、コスト削減
- グローバル連携の推進

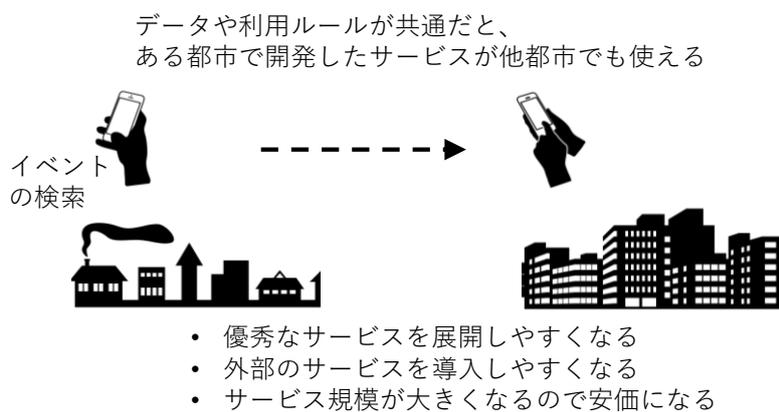
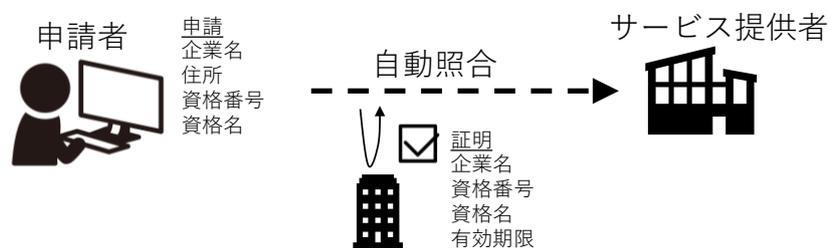


図3 サービス展開のイメージ



- 申請の手間やコストが減る
- 審査が自動化され短時間になる
- 証明の偽造が防げる

図4 申請自動化のイメージ